

～主催団体紹介と絵画展概要～

チェルノブイリ救援・中部は、1986年に起きたチェルノブイリ原発事故被災地支援の活動を行っています。1990年より現在まで、現地病院等への医療機器支援、事故処理作業員支援、放射能汚染されていない粉ミルクや離乳食を届けるミルクキャンペーン、手作りのクリスマスカードを集め心の交流を図るカードキャンペーンなどを行い、2011年の福島原発事故後は、福島你的生活空間線量を測定して汚染マップを作る活動、南相馬市の子ども食堂支援等を行っています。

2022年2月24日以降、戦時下となってしまったウクライナ。皆様よりご支援いただいた「ウクライナ救援基金」を活用し、必要な支援物資を届けています。

今回、絵画展『ウクライナの子ども達の絵画展～ウクライナの今、戦時下の子ども達からのメッセージ～』を企画しました。現地パートナー団体の「チェルノブイリ・ホステージ基金」と「ゼムリヤキ」の協力により、各学校、絵画教室などに呼びかけ、子どもたちの素晴らしい絵画が届き始めています。また、ウクライナから東海地域に避難している子どもたちにも、日本ウクライナ文化協会(JUCA)を通して参加を依頼しています。ウクライナの子どもたち・人々の命の重さや心と体の痛みに、今一度思いを寄せるために、どうぞ会場にお運びくださるようお願いします。

～ウクライナ現地パートナー団体紹介～

「チェルノブイリ・ホステージ基金」(代表：イエフゲーニャ・ドンチェヴァさん：写真左端)



団体名はチェルノブイリの人質たちの意味。ウクライナの汚染地域の人々は原発事故で放射能汚染から逃れられない運命を背負ってしまったという思いから付けられた名前。ジトームイル州で、病院や事故処理作業員団体、児童施設など支援を必要とする様々な団体からのニーズの把握、連絡調整、物資の調達、配布等を行っている。ロシアによる爆撃の影響で事務所が半壊するも、ドンチェヴァさんの自宅やシェルターで活動を継続。



「ゼムリヤキ (同郷人たち)」

(代表：クラシツカ・タマーラさん：写真右から2番目)

36年前のチェルノブイリ原発事故でプリピャチ市から強制疎開となり、首都キーウで活動する被災者の互助団体。現在、団体のメンバーたちは、戦禍の厳しい状況下で団体会員や戦争で占領された村人たちに、物資を配り励ましています。

<ウクライナ救援基金のご案内>

2022年度 16,832,959円のご寄附が寄せられ、現地へ12,540,736円の支援金を送金することができました。今年も引き続き、皆様からのご協力をお願いいたします。

① 銀行から…

三菱UFJ銀行 名古屋営業部 (店番150) 普通 6949211

② 郵便局から…

郵便振替口座:00880-7-108610

(※備考欄に「ウクライナ救援基金」とご記入ください)

①②とも口座名義:特定非営利活動法人チェルノブイリ救援中部

③クレジットカードで…

右のQRコードからもアクセスできます。

オンライン寄付ページ↓

<http://www.chernobyl-chubu-jp.org/kessai>

●備考欄に必ず「ウクライナ救援基金」とご記入ください。



<会場アクセス>

名古屋YWCA 2階会議室

(名古屋市中区新栄町2-3)

地下鉄「栄」東5番出口より東へ3分

